
願い蛍

青い侍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

願い螢

【Zコード】

N3657M

【作者名】

青い侍

【あらすじ】

ある二人の侍と娘の物語

時は幕末

昔、少五郎という侍がいました。

そしてその少五郎は香という娘との結婚を控えていました。

しかし、少五郎の家は藩に使える家柄、なかなか結婚できませんでした。

香はある話を聞いたのです。

夏になると、螢が現れる山がありました。

そこで、毎日螢がでるあいだ、そこで願い事するというんです。そうすれば、いつかは必ず願いが叶うといわれていたのです。

そして、ある日少五郎は藩の命令で京都にいけといつ命令が下ったのです。

少五郎は、行く前に香を呼びました。

そして、螢のでる山に夜いきました。

少五郎「香俺は京都に行かなくては、ならない」

香「知っています」

香は、すでに知っていました。

少五郎「そつか」

その瞬間ある光ものが一斉に飛び始めました。

香「強です。きれいですね少五郎さん。」

少五郎「やつだな。」

香「私は少五郎さんが帰つてくるまで、必ず待つています。」

少五郎「頼む必ず帰つてくれる」

そして、少五郎は香を抱きしめました。

香はその次の日から、毎日山に行つて少五郎が帰つて来ませんでし
い続けました

しかし、どれだけ待つても少五郎は帰つて来ませんでした。

そして、少五郎が死んだといつ手紙が少五郎の家に届きました。

しかし、香は願い続けました。

もう秋が近づいた頃

香が願つていたとき、前に薄く人らしきものが現れました。

それは、死んだはずの少五郎だったので。

しかし、それは薄くすきーとひよつなはだでした。

香「やつと帰つてきたくだせつたのですか」

少五郎「私は、死んだんだ」

香「嘘でしょ今こるじやないですか、私の田の前に」

少五郎「お前がいつもここで願つていたおくれたおかげだ」

香「少五郎さん」

少五郎「きれいだな蓮は」

香「はい」

少五郎「ほんとここままでありがとい。俺のぶんまで幸せに生きる
んだぞ香」

香「はい」

少五郎は消えてから一匹の蓮が空に向かってとびたった。

(後書き)

あなたはこの話を読みどうおもこましたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3657m/>

願い虫

2010年10月12日06時14分発行